

●国際連合大学 2017-2018 年国際教育交流事業●

タイ教職員招へいプログラム

実施報告書

2017 年 10 月 15 日 - 10 月 22 日

国 際 連 合 大 学 (UNU)
公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

●国際連合大学 2017-2018 年国際教育交流事業●

タイ教職員招へいプログラム

実施報告書

2017 年 10 月 15 日 - 10 月 22 日

国 際 連 合 大 学 (UNU)
公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

はじめに

国際連合大学（United Nations University）は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取り組みに、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002 年より主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。

2000 年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていたプログラムは、同年より本事業のもとで開催されることになり、国際連合大学の委託を受け、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、これまでに韓国および中国との交流を行い、それぞれ 3500 名以上の教職員を招へいしてきました。2015 年からは、この国際教育交流事業の一環として、さらに多くの国の教職員との交流を図るため、文部科学省、タイ教育省の協力のもと、新たに「タイ教職員招へいプログラム」が始まり、毎年タイ教職員 15 名を本邦に招へいしています。

今回のプログラムでは、2017 年 10 月 15 日から 22 日まで、タイの初等教育の教職員等 15 名を日本に招へいし、学校現場およびその他の教育、文化施設を訪問、見学いたします。日本の教育制度およびその現状の理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としております。

実施にあたりましては、文部科学省、タイ教育省、岡山県吉備中央町教育委員会、訪問先の学校、その他教育・文化機関等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2018 年 2 月

国際連合大学

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

目次

第Ⅰ章 実施内容

- 1. 来日、オリエンテーション..... 3
- 2. 地域受入れプログラム..... 3
- 3. 東京プログラム..... 8

第Ⅱ章 参加者アンケート

- 参加者アンケート..... 15

第Ⅲ章 関係者コメント

- 1. 訪問受入れ機関..... 25
- 2. 主催・実施機関..... 29

付録

- 1. 実施要項..... 32
- 2. プログラム日程..... 34
- 3. 参加者リスト..... 36
- 4. 関係機関リスト..... 37
- 5. 文部科学省講義・報告会発表資料..... 41
- 6. 写真..... 47

第Ⅰ章

実施内容

1. 来日オリエンテーション
2. 地域受入れプログラム
3. 東京プログラム

1. 来日、オリエンテーション

タイ教職員 15 名は、2017 年 10 月 15 日（日）に来日した。関西国際空港に到着後、バスで、宿泊先がある岡山市内へ向かった。大阪湾や神戸港などの夜景を堪能しながら、道中で夕食をとり、同日の夜にはアークホテル岡山に到着した。

翌日の 10 月 16 日（月）午前、宿泊先のホテルにてオリエンテーションが行われた。はじめに公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部の進藤由美部長の歓迎のあいさつがあり、続いて随行する ACCU 職員および通訳が紹介された。最後に、担当職員よりプログラム日程の説明や滞在ガイドランスなどが行われた。

2. 地域受入れプログラム

プログラム第 2 日目の 10 月 16 日（月）から 10 月 18 日（水）の 3 日間、岡山県吉備中央町教育委員会の受入れにより、吉備中央町を訪問した。同町は、岡山県の中央に位置し、標高 120～500 メートルの高原地帯で昔から吉備高原と呼ばれている一角にあり、気候は県南部と比較して冷涼な地域である。産業の中心は農業で、ブルーベリーやブドウなども特産品にあげられる。

2-1. 吉備中央町立大和小学校

10 月 16 日（月）、オリエンテーションを終えた一行は、吉備中央町にある吉備町立大和小学校を訪問した。同校は、日中友好、そしてアジア諸国との友好の架け橋となった岡崎嘉平太の誕生地であることから、毎年アジア諸国から留学生が訪れ交流を行っている。

学校到着後、同校の校長である立川一女氏が歓迎のあいさつを、訪問団を代表してタナボン・シサゲート氏が答礼を述べた。続いて、授業参観では、3～5 年生の授業を参観した。特に訪問団は「めあて」と呼ばれる、子ども一人ひとりが考える時間を与え、最後のまとめと振り返りを重視した授業に高い関心を持っていた。他にも、パソコン室、図書室、家庭科室、理科室など見学した。その後、ホールにて 5・6 年生と給食交流をした。同校の児童たちは、事前に学習したタイ語でのあいさつや英語を使って、訪問団と積極的に交流をした。給食終了後、全校児童による校歌の合唱、6 年生代表によるあいさつ、そして児童より手作りの記念品の贈呈が行われた。そして、訪問団を代表して、タムナムシン・ジラパー氏より答礼のあいさつが述べられた。

続いて、訪問団は会議室に戻り、校長の立川氏より、学校概要の説明を受けた。学校教育目標をはじめ、重点的な取り組みとして学力向上のための岡山型学習指導のスタンダードに沿った学習についてや、ペア学習や児童自らが理解不十分な問題プリントを自主的に学習できるシステム（i プリント）があることが紹介された。また、人間関係づくりのため、掃除や遊びの時間、学校行事や登下校などを異学年交流を通じて行っていること、保護者や地域との連携にも力を入れていることも紹介された。訪問団からは、「教育委員会との連携について」や「カリキュラムの作り方」、「読書と国語の時間の違いについて」などの質問が挙げられた。



同校児童とタイ語で交流するタイ教職員

2-2. 吉備中央町教育委員会

同日、一行は吉備中央町教育委員会を訪問した。はじめに、同教育委員会の事務局長である山本泰弘氏より、同町の紹介があった。同町には、国指定の重要文化財や民族文化財が数多くあり、岡山県三大祭のうち2つの加茂大祭と吉川八幡宮当番祭が受け継がれている。古きよき「心のふるさと」が息づいていると紹介された。続いて、同教育委員会の主幹である岡崎直樹氏より、同町の教育について3つの目標を紹介された。1つ目は、「子どもたちの学習意欲を喚起し、学力を向上させる魅力ある学校づくりの推進」、2つ目は「家庭・地域の教育力の向上」、3つ目は「国際教育の推進」である。訪問団からは、これらの説明を受け、「教育委員会がどのように学校を支援しているのか」、「児童生徒の能力をどのように伸ばしているのか」、「ALT（外国語指導助手）の配置をどのように行っているのか」などの質問が挙がった。その後、記念撮影を行った後、同教育委員会と同じ建物に所在する岡崎嘉平太記念館へ訪問し、岡崎嘉平太氏の生涯について学んだ。



吉備中央町について説明する吉備中央町教育委員会事務局

2-3. 吉備中央町歓迎交流会

同日夜、吉備中央町教育委員会主催の歓迎交流会が、吉備高原リゾートホテルの宴会会場にて催された。吉備中央町教育長の津島雅章氏をはじめ、同町副町長の岡田清氏、訪問校校長、訪問機関所属長、同町のALT教員などが出席した。

タイ教職員は、異なる時代の色鮮やかな伝統衣装に身を包み拍手で迎えられた。同教育委員会の山本春美氏の司会で歓迎交流会は開会となり、はじめに吉備中央町の副町長の岡田清氏より歓迎のあいさつがあった。同町は農業中心の町でお米の生産も盛んであることから、タイと共通することもある上、両国そして世界に共通することは、教育は人々の幸せの源であり、タイの教育のよいところも是非教えていただきたいと述べた。続いて、訪問団団長のアーリラット・ヤーナーソン氏は、吉備中央町はとても美しい町であり、このように温かい歓迎で迎えてくださり光栄である、と答礼を述べた。続いて、訪問団全員の紹介の後、訪問団からは象の時計が贈呈され、吉備中央町からは、同町のキャラクターのブッポウソウという鳥の「へそっぴー」のぬいぐるみが全員に贈呈された。そして、吉備中央

町議会議長の難波武氏の乾杯のあいさつで歓談が始まった。

歓談中には、タイ北部出身の団長ヤーナーソン・アーリラット氏とシーシン・チャンタナー氏によるタイ北部の方言でこんにちはという意味の「サワディージャオ」の歌に合わせて舞踊を披露した。続いて、訪問団より男女 2 名ずつがペアとなり、民族舞踊を披露し、参加者全員が輪になって一緒にタイの民族舞踊を踊った。その後、吉備中央町の小学 6 年生が毎年行っている富士登山にちなみ、吉備中央町からは「富士山」という童謡が披露された。最後に教育長より閉会のあいさつでは、アユタヤ王朝の活躍をした日本人山田長政の時代より、古くからタイとの交流が続いていることを話し、これからも交流が深まることを祈念し、歓迎交流会を締めくくった。



一人ひとり紹介を受けるタイ教職員訪問団

2-4. 吉備中央町立加賀中学校

10 月 17 日（火）午前、一行は吉備町立加賀中学校を訪問した。同校は、2014 年 4 月より、吉備中央町の竹荘・大和・吉川・加茂川中学校が統合して開校し、吉備中央町の 9 校の小学校を卒業した生徒が入学している。

学校到着後、同校の校長の信定直木氏よ

り歓迎のあいさつがあり、訪問団からは、チャンタナー・シーシン氏が答礼を述べ、記念品を贈呈した。続いて、教頭の武田浩充氏より学校概要説明があり、主に年間の学校行事について、写真とともに詳しく紹介した。訪問団からは、「授業数や登校時間」、「スマートフォンの SNS による問題について」、「生徒への評価や罰則について」など、幅広い質問が挙がった。

続いて、授業見学では理科やパソコン、音楽、家庭科、英語、国語の授業の様子や図書室などの施設を見学した。見学中にも、「生徒の座席に指定があるのか」、「学校規則について」、「給食の集金方法」、「教員の服装について」、「英語教育についてなど」、多くの質問が挙がった。そして、最後に記念撮影をし、同校をあとにした。



校長の信定氏と教頭の武田氏と記念撮影する様子

2-5. 吉備中央町立吉備高原小学校

同日午後、一行は吉備中央町立吉備高原小学校を訪問した。同校は、約 20 年前に岡山県の新設公立小学校として設立された。自然環境を利用した斬新な校舎は高い評価を受けており、教育内容においても、子ども読書活動で文部科学大臣表彰を受けているなど、高い教育水準を有している。

到着後、同校の校長の森寺勝之氏は、訪問団を会議室へ案内し、この日の日程について説明をした。続いて、同校の児童が準備をして待っていたランチルームに案内された。校長の森寺氏より、歓迎のあいさつがあり、給食のメニューの岡山名物の「ばら寿司」を紹介し、タイ教職員には特別に岡山産のパクチーがもてなされた。次に、児童代表が歓迎のあいさつをし、折り紙のくす玉をプレゼントした。訪問団を代表して、パーンティップ・ドーンカンパイ氏が答礼を述べ、記念品を贈呈した。その後訪問団は、児童と一緒に給食を食べた。児童たちはタイ教職員のもとへ行き、積極的に話しかけて交流を深めていた。

続いて、校長の森寺氏は、同校の施設を案内した。教室の黒板やロッカーなどが可動式であることや天井の高さに違いがあることなどを説明し、中庭、プール、校長室、保健室、図書館や体育館などを紹介した。また、同校はタイ教職員の訪問のため、タイについて事前学習をしており、校内に学習内容を掲示していた。その後、校長の森寺氏による学校紹介では、児童の一人当たりの平均の読書冊数は 130 冊であることや、学力向上のための取組みについて説明された。学校説明の後、訪問団は体育館に案内され、小学 1~3 年生のタン布林ダンスを鑑賞した。続いて、小学 4~6 年生は南中ソーランを披露した。一生懸命踊る様子に、訪問団は感銘を受け盛大な拍手を送った。全校児童と記念撮影をし、訪問団は会議室に戻った。

続いて、訪問団は 2 グループに別れ、それぞれ算数と体育の授業を参観した。同校でも「めあて」が示された授業を展開して

おり、児童が自らやり方を見つけて教えあう授業作りを指導している様子をじっくり見学することができ、訪問団からは、タイに持ち帰って実践したいという感想が出ていた。授業見学後、同校の教員も交えて、2 グループに別れて約 1 時間の意見交換をした。グループごとに自己紹介から始まり、「小学校の担任制の違いについて」、「小規模校特有の学年を超えて授業する場合について」の質問、「運動会について」、「児童の自己評価について」など、多岐にわたる意見交換が相互でなされ、日本とタイの違いや共通点を見出すことができた。



同校の教員とタイ教職員の意見交換会の様子

2-6. 公営塾 Kii+(きいと)

同日の夕方、一行は全国でも珍しい、吉備中央町町営の公営塾 Kii+を訪れた。同塾は、2016 年 7 月に、加賀中学校に隣接する公民館にて開塾した。タブレットを用いた個別学習スタイルで数学英語理科社会の中から、生徒自身が、自分で毎回立てた目標に沿って学習を進めている。

同塾に到着後、訪問団は、塾長である新免琢弥氏より座敷に案内された。始めに、塾長の新免氏より同塾の説明があった。同塾では、e-board というタブレットソフトを使用し一人ひとりが自分のペースで勉強できることを重視していることや、やる気を

与えるために、同塾の先生が計画の大切さなどトピックを決めて話をすること、探求学習にもち力をいれており、科目学習の他に、生徒自身が主体的に研究や調査をするためのサポートもしていることなどが紹介された。訪問団は、実際に生徒が目標を立てている様子、目標に沿って学習をしている様子を見学した。タブレットの使い方や、目標を記入するシートについて、熱心に質問を投げかけていた。



同塾で生徒に配布する目標の記入シートについて説明している様子

2-7. 岡山県総合教育センター

10月18日（水）午前、一行は岡山県総合教育センターを訪問した。同センターは、岡山県の教職員の研修施設として、吉備中央町に2007年4月に開所した。受講者は、公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員が中心である。主な研修として、経験年数別研修、職能研修、教科領域別研修、課題別等研修などが挙げられる。

同センター到着後、訪問団は所長の起塚郁夫氏をはじめとする、他職員に迎えられ、正面玄関口で記念撮影をした。そして、開会行事では、同センター所長の起塚氏の歓迎のあいさつがあり、訪問団を代表して、カジョン・シリラック氏より答礼を述べた。

まず、教科教育部長の藤原氏が、同セン

ターの教職員研修の概要説明を行い、研修講座、調査研究、学校支援、教育情報の収集及び提供、教育相談の5つの業務について紹介した。続いて質疑応答では、訪問団より、「不登校やいじめに関する相談の方法や相談の期間」、「プライバシーの保持などについて」、「学校への支援・協力方法」など様々な質問が挙がった。

続いて、訪問団は部屋を移動し、指導主事の西村氏と浅野氏によるプログラミング教育の講義を受けた。各テーブルに1台、「ロボホン」と呼ばれるロボットが用意されており、前のロボホンがタイ語を交えてかわいらしくあいさつをした。浅野氏の指導のもと、各テーブルのロボホンを動かすため、子ども向けのプログラミング言語を使用して、ロボホンに歌を歌わせてみたり、ダンスを踊らせてみたりした。そのかわいらしい動きに、タイ教職員も大いに感動していた。最後に、ロボホンに付属しているカメラで写真撮影をし、講義は終了した。講義についての質疑応答では、「ロボホンの対応言語について」、「男の子と女の子ではプログラミングへの興味の違いはあるのか」、「指導者について」、「故障したときの対応」など、多くの質問が挙がった。最後に、企画調整監の竹内成長氏の案内で、施設および人権研修講座の様子を見学し、同センターの訪問を終えた。



プログラミングに挑戦するタイ教職員



天籟庵を見学するタイ教職員

2-8. 重森三玲記念館・吉川八幡宮

同日午後、一行は吉備中央町出身の昭和を代表する造園学者の重森三玲の記念館を訪問した。記念館には、重森三玲氏の処女作である天籟庵が移築されており、タイ教職員は茶室で記念撮影をするなどして、日本の文化に親しんだ。

続いて、同記念館に隣接する吉川八幡宮を訪問した。吉川八幡宮は、本殿は国の重要文化財に指定されており、岡山三大祭の1つである、「当番祭」が行われる神社である。訪問の際は、ちょうど当番祭の準備の最中であった。途中合流した、教育長の津島氏より、お参りの方法を習い、各自お参りをした。また、隣接する吉川公民館も見学した。同公民館には、重森三玲氏の作品の写真などが展示されていた、また、タイ教職員は同公民館の大広間の畳にも関心を持ち、教育長の津島氏と記念撮影をした。そして訪問団は、教育長の津島氏に見送られ、岡山空港に向かった。

一行は岡山空港に到着し、吉備中央町教育委員会事務局長の山本氏、主幹の岡崎氏と別れのあいさつをした後、羽田空港に向かうため、飛行機に搭乗した。

3. 東京プログラム

3-1. 東京学芸大学講義・ACCU 訪問

10月18日（木）午前、当初東京学芸大学附属竹早小学校へ訪問の予定であったが、諸事情により、日本出版会館（ユネスコ・アジア文化センター所在）へ訪問場所を変更し、東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター教授・学長補佐の岩田康之氏による講義と ACCU の紹介を行った。岩田氏による講義には、同大学の学務部国際課長田保橋良氏と文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室海外協力政策係長の田中みずき氏が同席した。

まず、「近年の日本と教育課題とその背景」と題した講義が岩田氏によって行われた。講義では、日本の近代教育の歴史をはじめ、近年の教育課題や解決策について細やかな説明があった。また、同大学の教員養成大学としての教育組織についても紹介があった。続いて、質疑応答では、「貧困家庭へのケアや進学のアドバイスについて」、「地域などの協力を得ながら構成するチーム学校の運営の方法」、「教員採用試験について」、「日本の教員の貢献について」など、具体的な質問が多く挙がった。最後に、

ACCU の紹介を行い、訪問団は文部科学省へ向かった。



東京学芸大学教授岩田氏の講義の様子

3-2. 文部科学省表敬訪問

同日午後、一行は文部科学省へ表敬訪問をした。はじめに文部科学省大臣官房国際課長の里見朋香氏より歓迎のあいさつ、訪問団を代表して団長のアーリラット・ヤーナーソン氏の答礼があった。続いて、両氏による記念品交換、タイ教育省パチャラチャノン・グンティガー氏との記念品交換が行われた後、全員での記念写真撮影が行われた。

表敬訪問に続いて、同会場にて日本における初等中等教育について、初等中等教育局国際企画調整室長補佐の松淵紳氏による講義が行われた（講義資料は巻末に掲載）。講義終了後、質疑応答の時間が設けられ、「日本の子どもたちは礼儀正しいが、どのように規律を教えているのか」、「学校での掃除の時間について」、など質問が挙がった。



記念品交換の様子 団長のアーリラット氏（左）文部科学省大臣官房国際課課長里見氏（右）

3-3. 南池袋小学校

10月20日（金）、一行は豊島区立南池袋小学校を訪問した。平成13年に豊島区立高田小学校、豊島区立雑司が谷小学校、豊島区立日出小学校が統合して開校した同校は、知・徳・体・食のバランスのよい教育を推進している。英語教育に力を入れ、様々な取組みを行っているほか、2020年の東京五輪に向けての教育活動も行っている。

同校到着後、タイの国旗を振る1年生の児童らの熱烈な歓迎を受けた。会議室で行われた歓迎セレモニーでは、まず、同校副校長の西田隆氏および代表児童のあいさつがあり、続いて、訪問団を代表してターンシット・アラヤー氏が答礼を述べ、訪問団から副校長の西田氏に記念品が贈られた。最後に児童がタイ語で「ぞうさん」を披露し、歓迎の気持ちを表現した。

続いて、書道の授業参観が行われた。「おれ」に気を付けながら、「日」を書くという内容を、参加者は興味深く見学した。また、実際に筆を持ち、書道を体験する機会も設けられた。続いて、副校長の西田氏のもと、校内見学が行われた。参加者は特に壁のない教室の利点や効果などについて多くの質

間があがった。

休憩を挟み、訪問団員による同校児童を対象とした文化授業が5年生の3クラスで行われた。タイ教職員はそれぞれ、「ココナツの葉で魚をつくろう」、「ムエタイ（タイボクシング）を通してタイについて学ぼう」、「タイ文化とお祭り」というテーマで授業を行い、児童らは高い関心を示した。また、タイ文化授業へのお返しとして5年生児童による日本文化紹介が行われた。児童らは、和紙や七夕、茶道、お祭りなど様々な日本文化を紹介し、タイ教職員は熱心に耳を傾けた。

昼食時には1、2年生のクラスで訪問団員と児童が給食を食べながら交流を楽しんだ。「タイにも給食はあるか」、「タイ人の好きな食べ物は何か」などたくさんの質問があがり、和やかな交流の時間となった。

昼食終了後、訪問団員同士の振返りの時間が持たれ、同校で学んだことや文化授業のようすなどについて情報共有が行われた。一行が学校を出発する際には、国旗を持った児童から、にぎやかで心あたたまる見送りが行われた。



タイ教職員による文化授業でムエタイを教える様子

3-4. 報告会

10月21日（土）午前、1週間の成果を報告するため、日本出版会館4階会議室にて報告会を行った。報告会には、本プログラム主催者の国際連合大学サステイナビリティ高等研究所事務局長の古田知美氏、文部科学省大臣官房国際課課長補佐の南哲人氏、タイ王国大使館公使参事官のソムジャイ・クライスバーン氏、そしてホームビジットでタイ教職員を受け入れるホストファミリーなどが参加した。

まず、はじめに国際連合大学の古田氏より主催者としてあいさつがあり、今回のプログラムで得られた日本とタイの教職員ネットワーク、交流の輪を広げていただき、両国間の友好と相互理解の促進に尽力してほしいと述べた。続いて、文部科学省の南氏からは、帰国後は児童生徒や同僚の先生に今回の体験を共有していただき、日タイ両国の友好の輪が一層広がることを期待しているとあいさつがあった。そして、タイ王国大使館のクライスバーン氏からは、日本での滞在中に様々な場面から学んだことを、今後の自分自身の教育活動に活用できることを望んでいる、とあいさつがあった。

続いて、訪問団を代表して、ナックサアート・チャイデット氏とエッグアラート・モップクントッド氏より1週間の成果の発表があった。

まず、今回のプログラムの様子の紹介から始まった。続いて、プレゼンテーションでは、吉備中央町と東京都における教育の比較し、地方でも都市部でも同じ教育レベルを維持し、各地域に沿ったカリキュラムを応用していること、それらの強みは、1.日本の教育開発方針、2.教師の重視、3.教育経営陣のビジョン、4.学校教育活動、5.教育面の研究、6.コミュニティ参加、7.施設・環境 8.学習支援ツールであると分かったと述べた。

続いて、帰国後は、教育の方針について、以下のように応用したいと発表した。

- ①給与を公務員より高く設定するなど、教育関係者の福利厚生を増やす。
- ②教育関係者の人事制度について、教科と学年に合った教員を配置する。(当該教科の教員免許を持つ教員のみを配置する)
- ③教員関係者の人材育成制度について、教員の能力に合わせて、教員歴別の研修を設ける。
- ④国のコアカリキュラムに使用する期限を設け、学校の地域と教育段階に合った内容にするべきである。
- ⑤児童生徒の成長に必要な栄養を摂取できるよう、食事は献立を立てるべきである。
- ⑥特別なケアが必要な子供については、通常の児童生徒と一緒に学ばせ、専属の支援員や必要な設備を設ける。

また教育方針についても以下のように応用したいと発表があった。

- ①本当の学びは、知識を学ぶだけではなく、自ら真実を探し求める意識を持つ児童生徒に変えることが重要で、教員はそれを手助けするべきである。
- ②『チーム学校』で教育面のネットワークを構築し、子供たちに様々な経験や将来の仕事へのコネクションを与える。
- ③教室のレイアウトは、児童生徒や教員の間で相互作用が生まれるように、机をVの字に配置するなどして、教室内での児童生徒の参加が効率化されるようにする。
- ④児童生徒に役割を与えることで、規則正しく自身を律する訓練をする。
- ⑤指導ツールは、身の回りにあるものを使い、効率的に指導ツールを作成したり、児童生徒が興味を持つ身近なものを使い、カリキュラム

に合った指導ツールを作成する。

- ⑥学習活動は、児童生徒が自ら考え、実行し、問題解決をし、分析できるようになることを目指す。
- ⑦児童生徒が自己評価を行い、教師はアドバイスを行う形で行うことにより、体系的な能力開発を目指す。
- ⑧教員の授業研究や授業準備は、各方面および各段階の教育関係者の参加プロセスを経て行われており、各段階の教育管理職の支援を受け、日本の教師は教育指導のあらゆるプロセスに力を注いでいることが窺えた。

そして最後に、今回のプログラムで、タイの教育開発に対して非常に価値のある考えや方向性を示してくれ、日本とタイの間に持続的な関係を構築してくれたとへ感謝すると発表を締めくくった。

次に、団長のヤーナーソン氏からは、本プログラムで日本とタイの教職員同士のネットワークの構築ができたこと、そして今回の経験を自国に持ち帰り、教育に活用し、タイの児童生徒を育てていきたいとあいさつがあった。そして、3年間本プログラムを続けてもらったことに感謝すると述べた。続いて、ユネスコ・アジア文化センター人物交流部進藤部長より、プログラム参加証明書が、訪問団一人ひとりに授与された。

続いて、国際連合大学古田氏と訪問団団長ヤーナーソン氏の記念品交換、ユネスコ・アジア文化センター人物交流部進藤部長とタイ教育省パチャラチャノン氏の記念品交換が行われた。最後に人物交流部進藤部長は、次世代の人材を育てる教員同士が、お互いに交流を深め、情報を交換し啓発しあうことは大きな意義があることで、今後も教育現場で生かしてほしいと閉会のあいさつを述べ、報告会は終了した。



タイ教職員による発表の様子

3-5. ホームビジット

報告会終了後、訪問団はホストファミリーと対面した。12時～17時半まで、それぞれのホストファミリーと家庭で昼食をとり、短い時間ながら、日本の家庭に直接触れることができた。タイ教職員とホストファミリーは、みな笑顔でホテルに帰着した。

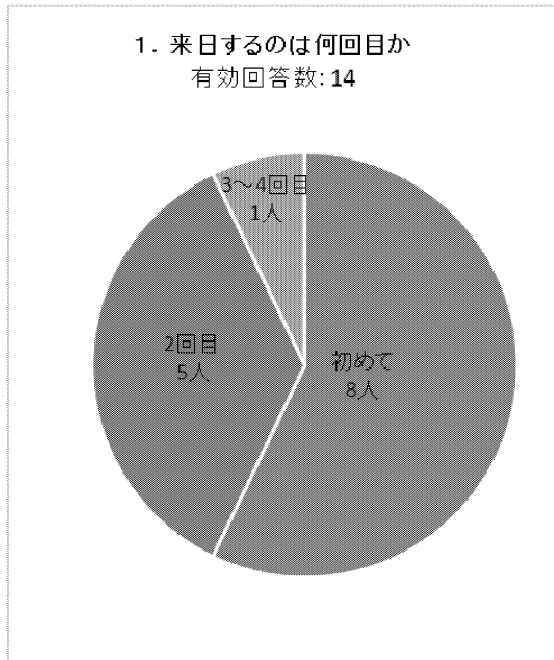


ホームビジットの様子

第II章

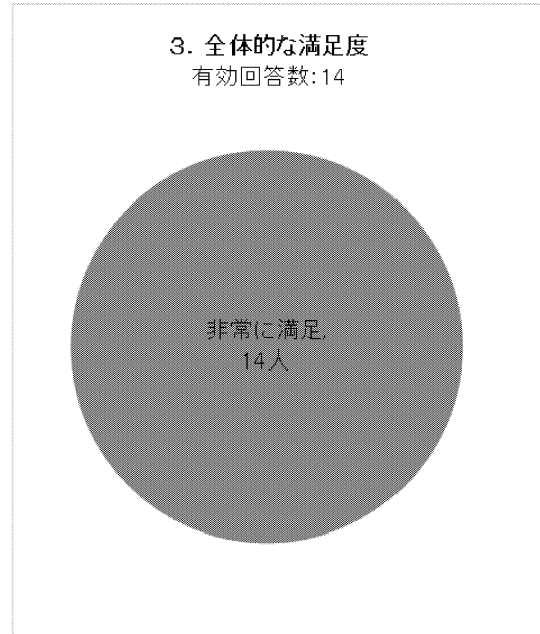
参加者アンケート

質問 1. 来日するのは何回目か

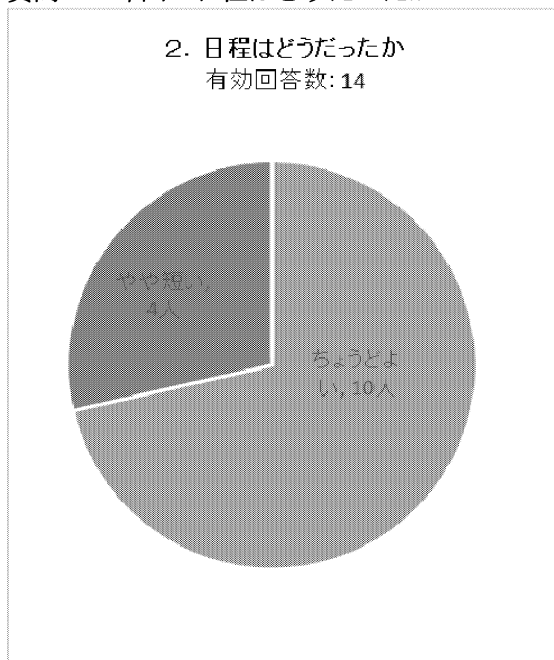


- ホームビジットの時間がもっと長いと良い。(ちょうどよい)

質問 3. 全体的な満足度



質問 2. 今回の日程はどうだったか



- さまざまな経験や知識を得ることができた。そして温かい歓迎に感動した。
- 日本の教育制度を学び、文化を体験することができた。それらの体験をタイの学校で活用したい。
- さまざまな経験や知識を得ることができた。
- プログラム日程、資料の内容、学校訪問など、とてもよかった。
- 日本の教育、教育の政策を理解した。タイと異なる部分や日本の教育の特徴など、今後タイで活用したいと思う。
- 非常に満足した。日本の教育について理解でき、タイで生かしたい。
- 学校や教育機関訪問が役に立った。
- 教授法や教育委員会の構成を理解した。
- 日本の教育課程と文化を学んだ。
- 日程の構成がよかった。時間管理が適切であった。
- 郊外と都会の授業を見ることができた。また、講義は役に立った。

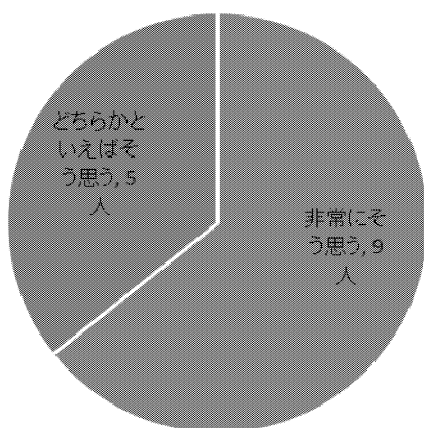
- 実施日程が短かった。細かい情報を十分に取れなかった。(やや短い)
- 日本の児童生徒の家庭でのホームビジットがあれば良い。(やや短い)
- 実施日程は適切だと思う。郊外と都会の学校をどちらも訪問することができてよかった。(ちょうどよい)
- 歴史的、文化的な場所にも訪問できるとよい。(やや短い)

質問 4. 参加目的は何か

- 日本の教育制度を学んだり、文化交流をしたり、どのように生徒が規律を守っているのか見ること。
- 日本の教授法をタイの学校に活用させること。
- 教育課程についての意見交換、教授法、日本の文化、技術の進歩について学ぶこと。
- 日本の児童生徒の規律について、数学と理科の授業について学ぶこと。
- 日本文化、生活、また授業の方針などを授業に活用すること。
- 日本とタイ教職員間や児童生徒間のネットワークを作ること。また、得た知識を活用すること。

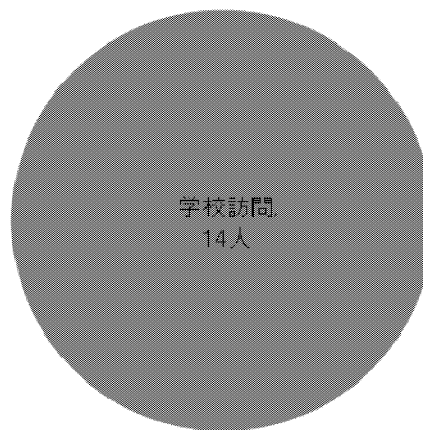
質問 5. 目的は達成できたか

5. 目的は達成されたか
有効回答数: 14



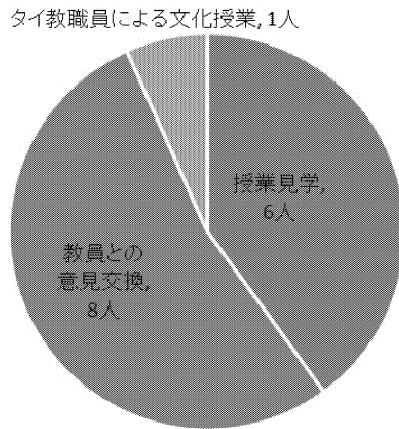
質問 6. 最も有意義な活動は何か

6. プログラムで最も有意義な活動は何か
有効回答数: 14



- 時間が限られている中でも、学校への訪問時間は適切であった。
- 授業の雰囲気や教授法を実際に見ることができた。
- 校内の設備、教授法、生徒の様子を見ることができた。日本教職員はとても真面目に授業を行っていた。
- 大規模校の教育、規律などがわかった。
- 学校訪問では、実際にタイで活用できることがあった。
- 学校訪問と講義だけではなく、日本教職員との質疑応答を通して、日本の教育の方針がわかった。

質問7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か

7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か
有効回答数: 15

- 授業見学によって、実際に授業の様子、教授法、教材などを見ることができた。(授業見学)
- 自分が知りたいことが質問できた。(教員との意見交換)
- 教授法についての案が得られた。(教員との意見交換)
- 自分の経験も話すことができ、またわからないことも質問できた。(教員との意見交換)
- 児童生徒が主体となって授業を行っていることがわかった。(授業見学)
- 直接日本教職員や校長先生と意見交換ができ、良い関係ができた。(教員との意見交換)
- 授業の内容、学校の運営、生徒の活動、栄養指導などを知ることができ、役に立った。(授業見学)
- 日本の児童生徒と交流できて、学校の様子を見ることができた。(タイ教職員による文化授業)

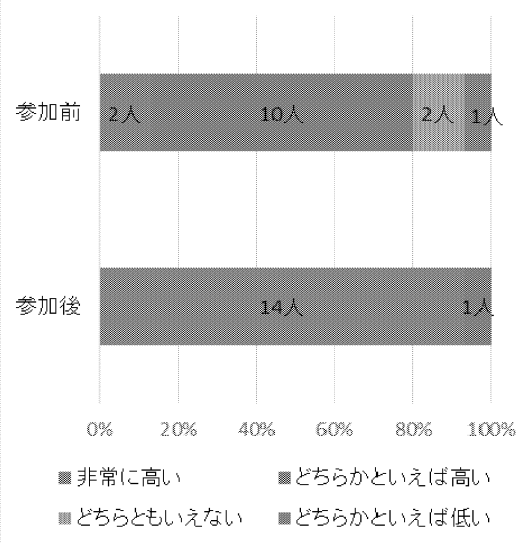
質問8. 他にどのようなプログラムがあったらよいか

- 訪問する地域に関するオリエンテーションがあれば良い。今回は教育についてだけではなく、文化につい

ても含まれていたのも、参加者にとって良かった。

- 数学や理科などの具体的な教授法を知りたい。
- 日本の児童生徒の家に訪問したい。児童生徒の家族と交流したい。
- 一日を通じてタイ教職員が授業に参加する。
- 私立の学校訪問。公立私立の違いを知りたい。また、日本の有名な塾に訪問したい。
- 各学校の児童生徒との交流。例えば、タイ教職員と日本教職員が共同で授業を行うなど。また、日本教職員がタイに訪問するようなプログラムがあれば良いと思う。
- プログラムはとても良かったが、もう少し実施日程を延ばしてほしい。
- 日本の文化と教育に繋がる歴史ある場所への訪問。
- 一日を通して授業を見学したり、タイ教職員と日本教職員と一緒に教授法について考えるたりすること。
- 1泊2日のホームステイ。
- 質疑応答の時間と日タイ教職員の意見交換の時間を増やしてほしい。

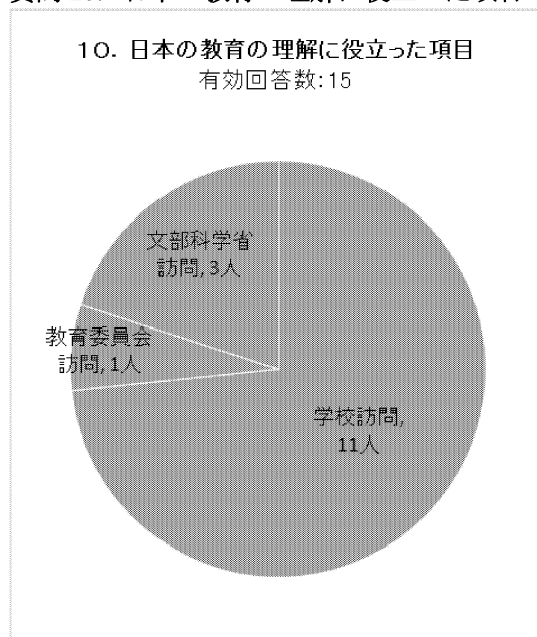
質問9. 日本の教育全般への関心の変化

9. 日本の教育全般への関心の変化
有効回答数: 15

- 日本の教育は、技術や人を成長させ、新しい発想を創り出せるものだ

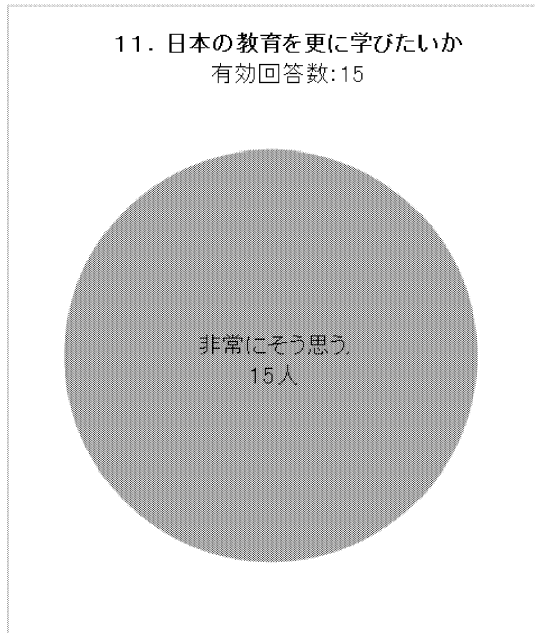
- 思った。(どちらかといえば低い⇒どちらかといえば高い)
- 学校管理についての情報はあまり得られなかったが、タイの学校に役に立つ教授法や教育についてさまざまな事を知ることができた。(どちらかといえば高い⇒非常に高い)
 - 日本の教育に非常に興味があり、テレビやインターネットでよく調べていた。(どちらかといえば高い⇒非常に高い)
 - プログラム前に日本の教育を紹介するテレビを見たことがあり、実際に見てみたいと思っていた。(どちらかといえば高い⇒非常に高い)
 - 参加する前は深く日本の教育については考えていなかった。(どちらともいえない⇒非常に高い)
 - 日本は世界的で技術や教育管理などが進んでいると知られており、国民の生活も良く、先進国でもあったので興味があった。(どちらかといえば高い⇒非常に高い)
 - 前から日本の教育システムに興味があったが、参加後、講義やプログラムの活動によって、わかるようになった。(どちらかといえば高い⇒非常に高い)
 - 日本の教育には関心があった。参加後も、もっとさまざまな知識や教授法などを知りたいと思った。(非常に高い⇒非常に高い)
 - 日本はきちんと規律を守る国であることがわかった。(非常に高い⇒非常に高い)
 - 日本全国の教育基準が同じであることがわかった。(どちらかといえば高い⇒非常に高い)

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目

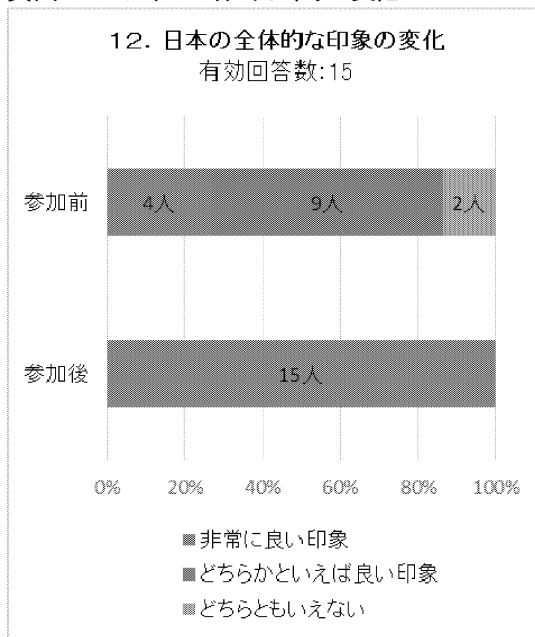


- 日本の教育方針を知ることができた。(文部科学省訪問)
- 実際に学校の様子を見ることができた。各校長の報告を聞くことができた。(学校訪問)
- 日本の教育制度がわかった。生徒はきちんとルールを守ることや学習環境を知った。(学校訪問)
- 学校の教育課程を学べた。(学校訪問)
- 学校見学によって、日本の教育システムと学校生活がわかった。(学校訪問)
- 授業内の活動や教え方を見ることができた。(学校訪問)

質問 11. 日本の教育を更に学びたいか



質問 12. 日本の全体的な印象の変化

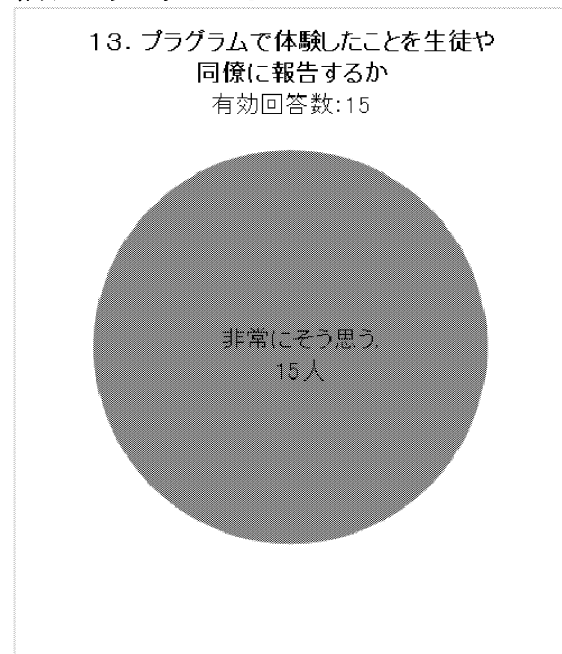


- 元々日本に対して良い印象持っていたが、参加後はもっと良い印象を受けた。(非常に良い印象⇒非常に良い印象)
- 参加前は、日本人はとてもきちんとしていて、丁寧であると思っていたが、参加後も思っていた通りの印象であり、さらに日本人が細かいところまで気を遣っていることがわかった。(非常に良い印象⇒非常に良

い印象)

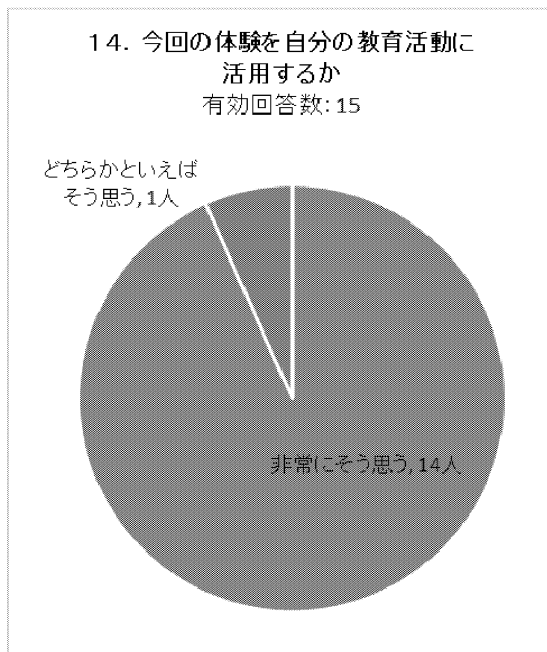
- 日本人は思いやりがあり、時間を守り、ルールを守っている。(どちらかといえば良い印象⇒非常に良い印象)
- 日本人は礼儀正しく、相手を尊敬している。(どちらかといえば良い印象⇒非常に良い印象)
- きちんとしていて、システマ的であり、清潔感があって、お互いの意見を大事にしていた。(どちらかといえば良い印象⇒非常に良い印象)

質問 13. プログラムで体験したことを生徒や同僚に報告しようと考えているか



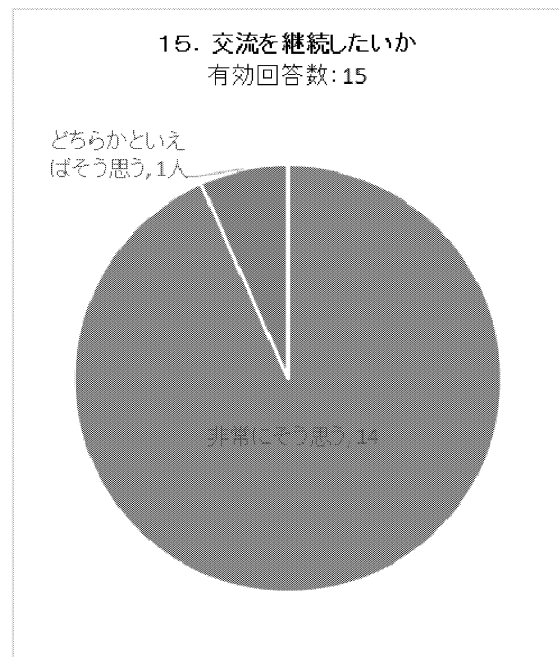
- 同僚に報告したい。
- 撮った写真や経験したことを同僚や生徒に報告したい。
- 学校や生徒に取り入れる予定。
- プログラムから得た知識をタイの教職員や生徒に広めたい。(日本の教授法)
- 教育を改善するために学校の幹部、同僚、生徒に報告する。
- 先に先生が全部を教えるのではなく、児童生徒に考えさせることなどを伝える。
- プログラムでの経験や感動したことを同僚または学校の関係者に報告する。

質問 14. 今回の体験を自分の教育活動に活用するか



- 日本の教授法をタイで活用したい。
- 同僚に教授法のアドバイスをする。
- プログラムの経験や知識を学校でできる限り活用させたい。日本の教育は、管理が行き届いていたが、実際にタイの学校に活用できるかどうかについては考える必要がある。
- 児童生徒が自分自身で考え、問題解決できるような活動を行う。
- 日本人が規律を守ることや心遣いについて、タイの学校でも教えたい。
- まず自分から、マナーや規律を守ること始める。
- 生徒の異なる意見を取り出し、質問に対してなぜ解決できたのか、またはなぜできないのかをクラスメイトに伝える。
- 授業を行う立場ではないため、直接に授業に活用できないが、自分が経験したことを同僚や他の教職員に伝えたい。また、学校の会議でもし経験したことを報告する機会ができれば報告したいと思う。

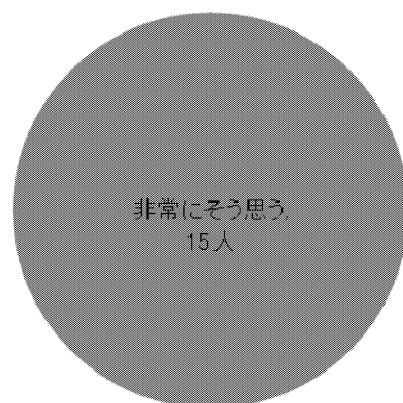
質問 15. 交流を継続したいか



- タイ教職員が日本の教育を知ることができるとても良いプログラムだと思う。
- 演劇などを題材に交流をしたい。例えば、日本とタイの児童生徒が録画した演劇を送り合う。
- 継続的にプログラムを行うことが良い。
- 教授法の意見交換や文化交流があると良い。
- もっと日本教職員と交流したい。
- 日本教職員がタイの学校に来て交流してきてほしい。
- タイ教職員と日本教職員の交換制度。

質問 16. このプログラムの継続は必要か

16. このプログラムの継続は必要か
有効回答数:15



- 教育の質の向上のためにタイ教職員にはこのような交流は必要だと思う。
- 毎年実施してほしい。また、参加したことのある先生を招待すると良い。
- タイで日本の教育制度を手本として見習うことができると思う。
- 各地域のタイ教職員が自己成長できる良い機会である。
- タイの教育を改善するきっかけになるので、多くの人がプログラムに参加できたら良い。
- 日本の教育には、さまざまな良い教授法があり、タイ教職員は自分の学校に生かすことができると思う。
- タイの教育の改善のため、継続的にタイ教職員に参加してほしい。

第Ⅲ章

関係者コメント

1. 訪問受入れ機関
2. 主催・実施機関

1. 訪問受入れ機関

●吉備中央町立大和小学校 校長 立川 一女

プログラムの全体的印象

- ・本校にとってはとてもよい刺激となり、短時間ではありましたが、交流できたことを嬉しく思いました。もっと十分に校内を案内したり、授業を参観したりするなど、教職員や児童と触れ合う時間があればよかったと感じました。
- ・掲示物や設備に関心をもっており、進んで質問したり写真を撮ったりする方が多く、この研修視察で様々なことを吸収しようという強い思いを感じました。
- ・5、6年生児童と給食交流をしましたが、言葉が通じなくても身振りや手振りでコミュニケーションをとりながら、楽しく食事をしている児童が多く、訪問団の皆さんも子どもたちに合わせて表情豊かに接してくれ、和やかな時間を過ごすことができました。
- ・全校児童との交流時間が短くて、十分な交流ができませんでしたが、児童が歌う校歌を温かく聴いてくださり、子どもたちも一生懸命に歌っていました。全体での記念写真を撮った後も、名残惜しそうに、あちらこちらで子どもたちと一緒に写真を撮っていて、子どもたちも笑顔いっぱいでした。
- ・学校概要説明では、本校の重点的な取組のみを簡単に説明しました。熱心に聴いてくれ、積極的に質問されたので、教員としての向上心の高さを感じました

プログラム成果

- ・訪問団をお迎えするにあたり、教職員も児童もタイについて事前に調べたり、簡単なあいさつなどをタイ語で覚えたりしました。わずかな時間でしたが、国際交流ができたことは、本校にとって貴重な活動の場となりました。

プログラムの改善に向けた助言

- ・通訳の方が的確に訳してくれたので予定の日程通りに活動ができました。宗教や文化、言葉の違いなどで、配慮する点もあり

ますが、異文化に触れることや日本独自のおもてなしをするという機会を与えてくださり、感謝申し上げます。

●吉備中央町教育委員会 主幹 岡崎 直樹

プログラムの全体的印象

- ・町教育委員会として、タイ教職員の皆さんの受入れをしたことは、大変良い刺激になりました。
- ・訪問校での訪問団の皆さんと児童がすぐに打ち解け、質問したり、写真を撮ったり出来ていたことが印象に残りました。
- ・訪問団の皆さんが、どの訪問先でも、熱心に質問をされ日本の学校教育について、吸収しようとしている姿が印象的でした。
- ・各施設での視察時間が短かったため、タイ教職員の皆さんの質問を途中で切り上げるようになってしまったことが残念に思いました。
- ・訪問団の皆さんが、どの場所でもたくさんの写真を撮られることに驚きました。

プログラム成果

- ・当町でも、ハラルに対応し観光客等を受け入れるため、事業を進めていますが、訪問団を受け入れたことで、食事の対応について、勉強になりました。

プログラムの改善に向けた助言

- ・学校訪問については、受入れの学校が可能であれば、1日1校で授業見学・教員との意見交換等が行えれば内容の濃い交流が行えると感じました。
- ・訪問団の皆さんと日本の教職員の意見交換に多くの時間を使った方が良いと感じました。吉備高原小学校での意見交換で、相互にいろいろな交流が行えていたが、時間が短かったかなと思います
- ・訪問先での様々な資料を ACCU でタイ語に翻訳して頂いたのが、助かりました。
- ・給食について、訪問団の皆さんにはお弁当を用意したほうが良いのではと感じました。

●吉備中央町立加賀中学校
教頭 武田 浩充

プログラムの全体的印象

- ・学校紹介のプレゼンテーションを見るだけでなく、多くのメモを取られていたのが印象的でした。
- ・質疑応答ではとても熱心に質問されました。また授業参観では、調理室や理科室にとっても興味を持たれていました。
- ・教室内では掲示物等に関心を持たれていました。
- ・多くの質問があったなかで、指導に困る生徒への対応の話で、減点方式や、お寺に入れるなど、本校では考えられないことを実践されていることが驚きでした。

プログラム成果

- ・学校紹介を作成することで、本年度の学校の行事等を振り返ることができました。
- ・他国の教育の一端を知ることができた。

プログラムの改善に向けた助言

- ・今回は、管理職との学校紹介や質疑応答と授業参観のみでした。教職員との交流や生徒との交流がないので、距離感が近かったり、濃い話にはならなかったと思いました。また来校してこられる方々の要望が詳しくわかっていれば、濃い話し合いができたと思いました。来校前に、タイ教職員の方々の質問をまとめていただけたら、話し合いもより深くなったと思いました。

●吉備中央町立吉備高原小学校
校長 森寺 勝之

プログラムの全体的印象

- ・海外の視察を受け入れることは、あまりないので職員も児童もよい経験になりました。
- ・代表の方が、地元ケーブルテレビのインタビューで「素晴らしい学校施設、学校の方針がよい」など、素晴らしいコメントをされ、とても励みとなりました。
- ・児童との交流、職員との交流も和やかにでき、もっともっと交流したいと多くの職員が感想を持ちました。思いのほか英語でも交流できました。

- ・タイ教職員の方が、どんなことにも、笑顔やスマイルで反応くださり、職員も児童も大変充実感を感じました。

- ・通訳の方がよく動いてくださり、また、ACCUの方がよく配慮くださり、とてもスムーズにできたと思います。ありがとうございました。

プログラム成果

- ・海外の教職員の受け入れの実践ができ、今後の参考となりました。児童の交流の仕方、教職員の授業公開の仕方、職員協議の方法など、ひとつひとつ今後の実践のベースになりました。
- ・受け入れの事前学習や施設の整備、ポスター掲示など、多くのことをACCUの方から指導いただき、大変参考になりました。今後の受け入れの参考とします。
- ・是非、次も吉備中央町へ訪問ください。もっともっと歓迎します。

プログラムの改善に向けた助言

- ・是非、相互交流をお願いします。タイの国にも大変興味を持ちました。
- ・「給食」は、日本独自の取り組みもあるので、児童と一緒に物を給食時間に食べるのは、ハードルが高い気がしました。タイの方の食事を用意し、日本の食育にも説明をした後、食事を一緒にするのがいいのかな、と思いました。日本の給食を食べるのは、タイの方には、苦労が多いかなと思いました。
- ・訪問日程のツメをもっと精度をあげ、もっと滞在時間をいただきたいと思います。

●Ki i+ (きいと)
塾長 新免 琢弥

プログラムの全体的印象

- ・町営塾のことを外国の方々にプレゼンする機会はほとんどないので、大変貴重な経験になりました。おそらく塾に来る前に見学をたくさんされていて疲れもあっただろうと思いますが、教室見学の際に、教職員の方々が主体的に生徒に関わっていたりカメラで授業の様子を撮影されていたのが印象的でした。

プログラム成果

・時間の制約があったため塾の説明と質問に答えることに終始したので、なかなか話す時間がなかったので今回は成果と呼べるものではありません。ただタイの方々に話すことはめったになく、とても貴重だったと強く感じています。

プログラムの改善に向けた助言

・他とのバランスがあると思いますので、なかなか実現は厳しいと思いますが、もう少し緩く交流する時間が欲しかったと感じています。通訳の方と事前に打ち合わせが欲しかったです。

●岡山県総合教育センター 企画調整監 竹内 成長

プログラムの全体的印象

・日本（岡山県）の教育制度や教職員研修について、大変興味関心をもっておられ、説明する当センターの所員も力が入りました。また、タイの教育制度や、教育に対する保護者の考え方の違いなど、当センターの所員にとっても多くの学びがありました。

・教育相談の在り方や、発達障害のある児童への対応、人事評価等の質問があり、まさしく、我々が現在直面している課題であり、タイと共通するものであると感じました。

・学習規律や道徳教育について、強い関心をもっておられたのが印象的です。

・プログラミング教育の説明では、県下の学校で実施しているロボットを活用した演習を体験していただき、好評であったのが印象的でした。

・書道の教員による手書きの横断幕や、かいの木ノ葉のパウチ、日本の小学生が大好きな菓子を袋詰めにしたものなどが好評であったのが印象的でした。

プログラム成果

・タイの教育環境や教育制度について、直接お聞きすることで理解を深めるとともに、改めて、日本（岡山県）の教育環境や教育制度の良さ・課題を客観的に捉えるこ

とができました。

・厳しい教育環境の中で、あふれんばかりの熱意と愛情を注ぎ子どもに関わっている姿勢は大いに学ぶべきものでした。

・海外の教職員の方の訪問等を積極的に受け入れることで、当センターとしても刺激を受け、開かれた研修施設となっていくことが大切であると考えています。

プログラムの改善に向けた助言

・受け入れ担当者としては、当センター訪問前にタイの教職員の方との懇談により名前と顔が概ね分かっていたので、安心してお迎えすることができました。

・事前に、どのようなことが知りたいか、見たいかなど分かると、よりよい説明ができるかと思います。

・受け入れ時期として、10月中旬は受け入れしやすい時期でした。

・海外の教職員の方の訪問等を積極的に受け入れることで、当センターとしても刺激を受け、開かれた研修施設となっていくことが大切であると考えています。この度の訪問ありがとうございました。

●豊島区立南池袋小学校 副校長 西田 隆

プログラムの全体的印象

・タイの先生方の授業が、児童にとってとても印象に残ったようです。タイのことが、実感を通して具体的にとてもよく分かったようです。私たち教師も、タイの先生方の授業の進め方や児童の意見の引き出し方の素晴らしさに感動しました。児童同士も教師相互にも学び合えたことがとてもよかったと思い、感謝しています。

・タイの衣装を着てくださったり、コナツの魚や飾りを一緒に制作したり、ムエタイを体感したりと具体的にタイを感じ取ることができました。タイの文化や・伝統に触れ、子どもはとても喜んでおり、タイへの想いを強くもったようです。

プログラム成果

・映像資料や具体的な活動などから、タイの文化についての正確な知識を得ること

ができました。また、子どもたちの日本文化の発表に熱心に耳を傾けてくださり、伝えることの楽しさをあじわい、子どもたちの自信につながりました。（「もっと伝えなかった。」「話をしたかった。」など）

・教師として子どもたちを引きつけながら授業を進めたり、子どもたちの様子を見ながら個に対応したりと、指導力の高さを感じ、我々の励みとなりました。

プログラムの改善に向けた助言

・常にきめ細かくご丁寧な連絡を戴き有り難うございました。お陰様で円滑に準備を進めることができました。

・本校では、タイの方々と継続的に交流したいと考えております。例えば、4月13日～15日のソンクラーンの期間、2月8日から始まる旧正月、あるいは、1月1日などに、手紙交流ができると良いです。

2. 主催・実施機関

●国際連合大学

サステナビリティ高等研究所

事務局長 古田 知美

10月15日から8日間という短いプログラムでしたが、タイ教職員訪問団の皆様には、首都圏と岡山県で様々な取組をされている学校や教育文化施設への訪問を通じて、日本の学校教育制度及びその現状について多くのことを体験いただきました。

各機関への訪問を終えて、タイの先生方が作成された報告会のPPTには、桜の花とタイの国花であるドーク・ラーチャプルックの絵が描かれていました。今回の招へいプログラムを通じて、タイの教職員の皆様には、日本の教育制度をご理解いただいたばかりではなく、日本の教職員・児童生徒との交流を通じて、それぞれの教育・文化の違いを楽しんでいただき、両国の教育に対する情熱や児童の明るい笑顔等、共通する思いを感じていただいたことと思います。今後とも、両国の文化・環境は異なっても、ともに美しい花を咲かせ続けられるように、暖かい交流が続いていくことを願っています。

本プログラムの実施にあたり、学校教育現場や教育機関をご視察いただくために、多大なご尽力を賜りました日本・タイの関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

●ユネスコ・アジア文化センター

人物交流部 部長 進藤 由美

「日・タイ修好130周年」の記念すべき年となった2017年、本プログラムを通してタイの初等中等教育教職員14名と教育行政職員1名の計15名を招へいできたことは大変喜ばしいことでした。タイ教職員招へい事業は今年で3年目ということもあり、日本の地方にも足を伸ばして頂きました。スケジュールは多少ハードなものになりましたが、プログラム前半は岡山県吉備中央町教育委員会が受け入れてくださり、地域ならではの小規模校や教育施設を視察させて頂きました。東

京では最終日開催した報告会では、ホームヴィジットの受入れ家庭の皆様にもご参加頂き、タイの先生方から様々な気付きや感想を共有頂きました。受け入れにご協力頂きました各教育機関の皆様、児童・生徒、ご家族の皆様にご心よりお礼申し上げます。

●ユネスコ・アジア文化センター

人物交流部 河口 枝里子

第3回目となった本プログラムを担当させていただきました。今年は、日タイ修好130周年を迎え、日タイの友好の持続が期待されています。日本では、タイの観光客も増えており、通りすがりにタイ語を聞くことが増えました。また、日本においてもタイは人気の観光地であり、訪れた人も大勢いると思います。このような社会の変化の中で、文化や言葉について学びあうことは、とても重要であり、深い交流が生まれるきっかけだと思います。特に、訪問校の児童が、タイ語で「サワーディカー」と挨拶する姿は担当者としてもタイ教職員同様暖かい気持ちになりました。また、お互いの教育を通して、未来の子どもたちのために改善していこう、国へ持ち帰って生かしていこうという心意気にプログラム意義を感じました。

ご協力いただいた、訪問機関のみなさまへ改めて感謝を申し上げますとともに、今後もタイとの交流が続くことを心より願っております。そして、日タイの教育交流が持続し、発展するためのプログラムづくりに努めて参りたいと思います。

●ユネスコ・アジア文化センター

人物交流部 齋藤 盛午

昨年度のプログラム終了直後、2016年10月13日にプミポン・アデューンヤデート国王が崩御され、タイをはじめとし全世界が深い悲しみに包まれたことが記憶に新しい中で実施された本プログラムですが、「プミポン国王はタイ国民が幸せで笑顔でいることをつねに願っていた。だから、私たちは悲しみを乗り越えて笑顔でいたい」との訪問団員の言葉に感動を覚えました。その言葉の通り、プログラム期間中、日本教職

員・児童生徒と交流する際には、“微笑の国”の明るい笑顔で和やかな交流が行われました。そのようなタイの方々のひたむきさに触れ、どうして多くの人々がタイという国に魅かれるのか、その理由があらためてわかった気がしました。

プログラム終了後には、タイ教職員が日本児童を対象に文化授業を行った豊島区立南池袋小学校から、今回訪日したタイ教職員の学校と今後も持続的に交流したいといううれしいご連絡をいただき、同校とタイの学校 3 校が手紙交流を開始する予定です。このような 1 つひとつのつながりが、やがて大きな変化へと結びつくものと信じてやみません。

昨年 9 月、日タイ両国は修交 130 周年を迎えました。東京代々木で行われるタイフェスティバルには毎年 30 万人以上の来場者で賑わうことから、両国の交流が活況を呈していることがうかがえますが、教育面においても交流・協力がいっそう深まるよう、弊センターでは今後もより良いプログラムを提供することで両国間の友好に貢献していく所存です。

付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. 写真

◆付録 1. 実施要項

タイ教職員招へいプログラム (2017 年 10 月 15 日－22 日：東京近郊)

実 施 要 項

1. 背 景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)では、我が国とアジア太平洋地域の教職員間の交流を深め、相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、2002 年より国際教育交流事業を実施し、日韓・日中間の相互理解促進、学校間交流に大きく貢献してきた。

2015 年からは、この国際教育交流事業の一環として、さらに多くの国の教職員との交流を図るため、文部科学省、タイ教育省の協力のもと、「タイ教職員招へいプログラム」が始まった。第 2 回となる今年度は、2017 年 10 月 15 日(火)から 22 日(月)までの 7 日間にわたりタイ王国から中等教育教職員、教育行政職員など約 15 名を本邦に招へいする。

2. 目 的

- (1) 日本の教育制度、学校教育の現状や特色ある取り組みをタイ教職員に紹介する。
- (2) 日本の教材開発や教職員研修などをタイ教職員に紹介する。
- (3) 教職員間の意見交換を通じて、両国の教育の質を高める。
- (4) 日本の文化および社会全般に対する理解を深める。
- (5) 訪問する学校などでの交流や両国教職員の交流会を通じて、両国教職員の持続的なネットワークの構築、強化に寄与する。
- (6) 両国の相互理解と友好を促進する。

3. 日 程

本プログラムは、下記の日程で実施される予定である。

日付	日程	訪問先	活動
10 月 15 日 (日)	第 1 日	岡山県	日本到着
10 月 16 日 (月)－ 10 月 18 日 (水)	第 2－4 日	岡山県吉備中央町	オリエンテーション 吉備中央町教育委員会表敬訪問、歓迎交流会、 学校訪問(授業見学、教員交流、児童生徒との 交流)、教育文化施設・史跡視察
10 月 19 日 (木)	第 5 日	東京近郊	文部科学省講義
10 月 20 日 (金)	第 6 日	東京近郊	学校訪問 2 校
10 月 21 日 (土)	第 7 日	東京都	ホームビジット、報告会
10 月 22 日 (日)	第 8 日	帰国	

4. 参加者数

約 15 名

5. 参加資格

- (1) タイ王国の国民であること。
- (2) 所属する学校等からの推薦を受けた、タイ王国の中等教育教職員および教育行政職員であること。
(教育行政官及び教育専門家を含む)
- (3) プログラム参加中に得た成果を帰国後に自身の所属先、引いてはタイ王国の教育に還元する姿勢を持つもの。
- (4) プログラム参加中ならびに参加後も積極的に主に教育分野における日本との交流および国際相互理解を深める活動に取り組む姿勢を持つもの。
- (5) プログラムの全日程に参加が可能であること。

なお、参加者は、①教員経験 3 年以上のもの、②日本との学校間交流、授業交流を希望しているもの、③日本の教科書および教材開発に高い関心を持つものが望ましい。

6. 評価と報告

日本出発前(第7日)

各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。

帰国後

各参加者は報告書を作成し、タイ教育省を通して ACCU に提出する。

7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

(1) 往復航空運賃

タイ国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。

(2) 宿泊と食事

プログラム期間中の宿泊(朝食含)、およびプログラム期間中の食事。

食事が提供されない場合については食費を支給する。

(3) 日本国内の移動旅費

プログラム期間中の、自由行動時以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9. 通 訳

公式プログラム期間中は原則として日本語とタイ語間の逐次通訳が行われる。

10. 申請・推薦手続

タイ教育省は、参加者を選定し、8月10日(水)までに参加者リストおよび参加者のデータシート、パスポート控えを揃えて、ACCU へ推薦することとする。

11. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

人物交流部 担当: 齋藤・河口 (部長: 進藤)

〒162-8484 東京都新宿区袋町6番地 日本出版会館

TEL: 03-3269-4498

FAX: 03-3269-4510

E-MAIL: accu-exchange_ml@accu.or.jp

◆付録 2. プログラム日程

Day 1	วันที่ 15 เดือน ตุลาคม (วันอาทิตย์)	10月15日(日)
	การแต่งกาย: ชุดลำลอง อาหารกลางวัน: บนเครื่องบิน / อาหารเย็น: ร้านอาหาร	当日の服装: カジュアル 朝食・昼食: 機内食 / 夕食: レストラン
08:25	เดินทางออกจากกรุงเทพฯ (สนามบินสุวรรณภูมิ : TG672)	バンコク (スワンナプーム空港) 発 (TG672)
15:55	เดินทางถึงโอซาก้า (สนามบินนานาชาติคันไซ)	大阪 (関西国際空港) 着
19:00- 19:45	อาหารเย็น (ร้านอาหาร มิทิส :อาหารญี่ปุ่น)	夕食 (三木SAレストラン: 和食)
21:30	เดินทางถึงโรงแรม, เช็กอิน	ホテル着・チェックイン
Day 2	วันที่ 16 เดือน ตุลาคม (วันจันทร์)	10月16日(月)
	การแต่งกาย: ชุดลำลองทั้งทางการ สิ่งของจำเป็น: แขนงัด* นามบัตร เครื่องรับฟังการแปล *จะมอบให้ในชั่วโมงเรียนพิเศษ อาหารเช้า: โรงแรม / อาหารเย็น: ที่งานเลี้ยงต้อนรับ	当日の服装: ビジネスカジュアル 持ち物: ハンドブック*, 名刺, 通訳レシーバー* *オリエンテーションで配布します。 朝食: ホテル / 夕食: 歓迎交流会
06:30	อาหารเช้า (ร้านอาหาร ลา เพซ ในโรงแรม ชั้น 1)	朝食 (ホテル1階 レストラン「ラ・ページュ」)
08:50	เคาน์เตอร์เช็คเอาท์	ホテルチェックアウト
9:00-10:00	ออเรียนเทชั่น	オリエンテーション
10:30	เดินทางออกจากโรงแรม	ホテル発
11:30- 14:00	เยี่ยมชมโรงเรียนประถมศึกษายามาโตะ (อาหารกลางวัน:อาหารกลางวันของรร.)	吉備中央町立大和小学校訪問(昼食: 給食)
14:20- 14:40	เดินทางถึงโรงแรม	ホテル到着
14:45- 16:45	เยี่ยมชมสำนักงานคณะกรรมการการศึกษาเมืองคิบูชิโอ	吉備中央町教育委員会表敬訪問
16:45-17:25	เช็กอิน・พักเบรก (เปลี่ยนเครื่องแต่งกายเป็นชุดไทยได้)	チェックイン・休憩 (伝統衣装に着替え可能)
17:30-19:30	งานเลี้ยงต้อนรับ	歓迎交流会
Day 3	วันที่ 17 เดือน ตุลาคม (วันอังคาร)	10月17日(火)
	การแต่งกาย: ชุดลำลองทั้งทางการ สิ่งของจำเป็น: แขนงัด* นามบัตร เครื่องรับฟังการแปล อาหารเช้า: โรงแรม / อาหารเย็น: โรงแรม	当日の服装: ビジネスカジュアル 持ち物: ハンドブック, 名刺, 通訳レシーバー 朝食: ホテル / 夕食: ホテル
07:00	อาหารเช้า (บุฟเฟต์ห้องอาหารกิกิโรว ในโรงแรม ชั้น 2)	朝食 (ホテル2階 「ごっつおうビュッフェバイキング」)
09:15	เดินทางออกจากโรงแรม	ホテル発
9:30— 11:35	เยี่ยมชมโรงเรียนมัธยมศึกษาตอนต้นคากะ	吉備中央町立加賀中学校訪問
12:00-16:30	เยี่ยมชมโรงเรียนประถมศึกษาคิบิโคเกน (อาหารกลางวัน:อาหารกลางวันของรร.)	吉備中央町立吉備高原小学校 (昼食: 給食)
17:00- 18:15	เยี่ยมชมโรงเรียนกวดวิชาคิโต	公営塾Kii+訪問
18:30	เดินทางถึงโรงแรม	ホテル着
19:00	อาหารเย็น (ร้านอาหารในโรงแรม:อาหารญี่ปุ่น)	夕食 (ホテル: 和食)

Day 4	วันที่ 18 เดือน ตุลาคม (วันพุธ)	10月18日(水)
	การแต่งกาย : ชุดลำลองถึงทางการ สิ่งของจำเป็น : แอแดปเตอร์ นามบัตร เครื่องรับฟังการแปล อาหารเช้า : โรงแรม/ อาหารเย็น : ร้านอาหารในโรงแรม	当日の服装: ビジネスカジュアル 持ち物: ハンドブック、名刺、通訳レシーバー 朝食: ホテル / 夕食: ホテル
07:00	อาหารเช้า (บุฟเฟต์ห้องอาหารกักโชว ในโรงแรม ชั้น 2) 朝食 (ホテル2階「ぶつおうビュッフェバイキング」)	
09:15	เดินทางออกจากโรงแรม ホテル発	
9:30-11:30	เยี่ยมชมศูนย์การศึกษาทั่วไป จ.โอokayามะ 岡山県総合教育センター訪問	
12:00-13:00	อาหารกลางวัน (ร้านอาหารคะโย : อาหารญี่ปุ่น เทนปุระ) 昼食 (かよう : てんぷら)	
13:30— 14:30	ทัศนศึกษาศาลเจ้าโยชิกาวะซาชิมันกู・อนุสรณ์สถานชิเกะโมริ มิเร 吉川八幡宮・重森三玲記念館訪問	
16:45	ออกจากโอokayามะ (สนามบินโอokayามะ:JL240) 岡山 (岡山空港) 発 (JL240)	
17:50	เดินทางถึงโตเกียว (สนามบินฮาเนดะ) 東京 (羽田空港) 着	
19:15	เดินทางถึงโรงแรม ホテル到着	
19:30	อาหารเย็น (ร้านอาหารอิตาเลียน iL CHIANTI EST) 夕食 (イルキャンティエスト: イタリアン)	
Day 5	วันที่ 19 เดือน ตุลาคม (วันพฤหัสบดี)	10月19日(木)
	การแต่งกาย : ชุดทำงาน สิ่งของจำเป็น : แอแดปเตอร์ นามบัตร เครื่องรับฟังการแปล อาหารเช้า : โรงแรม/ อาหารเย็น : รับประทานอาหารเอง	当日の服装: ビジネス 持ち物: ハンドブック、名刺、通訳レシーバー 朝食: ホテル / 夕食: 各自
07:00	อาหารเช้า (ร้านอาหาร iL CHIANTI EST ในโรงแรม ชั้น 1) 朝食 (ホテル1階「イルキャンティ・エスト」)	
08:50	เดินทางออกจากโรงแรม ホテル出発	
9:20-12:35	โรงเรียนประถมศึกษาพิเศษทะเลสาบยามาโตมหาวิทยาลัยโตเกียวกะคุเค 東京学芸大学附属竹早小学校訪問	
13:00-13:45	อาหารกลางวัน (ร้านอาหารโทฟูโระ:อาหารญี่ปุ่น) 昼食 (豆腐屋 : 和食)	
14:20- 16:40	เข้าพบคารวะทางกระทรวงการศึกษา วัฒนธรรม กีฬา วิทยาศาสตร์และเทคโนโลยี 文部科学省表敬訪問・講義	
17:10	เดินทางถึงโรงแรม ホテル到着	
Day 6	วันที่ 20 เดือน ตุลาคม (วันศุกร์)	10月20日(金)
	การแต่งกาย : ชุดลำลองถึงทางการ สิ่งของจำเป็น : แอแดปเตอร์ นามบัตร หลังจากถึงโรงแรมจะทำการเก็บเครื่องรับฟังการแปลคืน อาหารเช้า : โรงแรม/ อาหารเย็น : รับประทานอาหารเอง	当日の服装: ビジネスカジュアル 持ち物: ハンドブック、名刺、通訳レシーバー* *ホテル到着後、通訳レシーバーを回収します。 朝食: ホテル / 夕食: 各自
07:00	อาหารเช้า (ร้านอาหาร iL CHIANTI EST ในโรงแรม ชั้น 1) 朝食 (ホテル1階「イルキャンティエスト」)	
09:10	เดินทางออกจากโรงแรม ホテル発 (徒歩)	
9:20- 13:00	เยี่ยมชมโรงเรียนประถมศึกษาามินามิอิเคะบุคุโระ (อาหารกลางวัน:อาหารกลางวันของรร.) 南池袋小学校訪問 (昼食: 給食)	
13:00- 14:00	ประชุมแชร์ข้อมูล 情報共有会	
14:15	เดินทางถึงโรงแรม ホテル着	
Day 7	วันที่ 21 เดือน ตุลาคม (วันเสาร์)	10月21日(土)
	การแต่งกาย : ชุดลำลองถึงทางการ อาหารเช้า : โรงแรม/อาหารเย็น : รับประทานอาหารเอง	当日の服装: ビジネスカジュアル 朝食: ホテル / 夕食: 各自
07:00	อาหารเช้า (ร้านอาหาร iL CHIANTI EST ในโรงแรม ชั้น 1) 朝食 (ホテル1階「イルキャンティエスト」)	
09:30	เดินทางออกจากโรงแรม ホテル発	
10:00- 11:20	ประชุมรายงานผล 報告会	
11:30	เยี่ยมบ้านคนญี่ปุ่น ホームビジット対面式	
17:00	เดินทางถึงโรงแรม ホテル着	
Day 8	วันที่ 22 เดือน ตุลาคม (วันอาทิตย์)	10月22日(日)
	การแต่งกาย : ชุดลำลอง อาหารเช้า : โรงแรม/ อาหารกลางวัน : บนเครื่องบิน	当日の服装: カジュアル 朝食: バス内 / 昼食: 機内食
06:50	เคาน์เตอร์เช็คเอาท์ ホテルチェックアウト	
07:00	อาหารเช้า (ร้านอาหาร iL CHIANTI EST ในโรงแรม ชั้น 1) 朝食 (ホテル1階「イルキャンティエスト」)	
07:45	เดินทางออกจากโรงแรม ホテル発	
10:35	โตเกียว (เดินทางออกจากฮาเนดะ : TG683) 東京 (羽田発) 発 (TG683)	
15:05	เดินทางถึงกรุงเทพ (สนามบินสุวรรณภูมิ) バンコク (スワンナプーム) 着	

◆付録 3. 参加者リスト

タイ訪問団

No	氏名	性別	学校名	役職	担当教科	都市/県
1	タナボン・シーサケート Thanaporn Srisaket	女性	ウタイターニー教育委員会 Uthai Thani Primary Education Service Area Office 2	理科指導・ 初等教育		ウタイターニー
2	ジラパー・タムナムシン Jirapha Thamnamsin	女性	コンケー教育委員会 Khon Kean Primary Educational Service Area Office 2	初等教育		コンケー
3	アーリーラット・ヤーナソーン Areerat Yanasorn	女性	チュムチョンバンムアンジー学校 Chumchonbanmuangjee School	校長		ラムブーン
4	ナラボン・アーサーリン Narapong Asarin	男性	ナムボン学校 Nampon School	教員	数学	ルーイ
5	チャンタナー・シーシン Chanthana Srisin	女性	フアイシン学校 Huaysing School	教員	社会	メーホンソーン
6	バーンティップ・ドーンカイパイ Pantip Donkhapai	女性	ワットサシムム学校 Watsasim School	教員	社会	ナコンパトム
7	シリラック・カジョン Siriluck Kajhon	女性	ワット タヴィーポーラン ランサン学校 Wat Thaweepon Rungsun School	教員	全教科	ナコンナーコック
8	サンティ・ギルーギヤット Santi Kitluekiat	男性	ヴィパーバット学校 Wipapat School	校長・教員	英語	バトゥムターニー
9	アラヤー・ターンシット Araya Tansit	女性	プラーモートヴィッタヤーミントラ学校 Pramochwittayamintra School	課長	理科	バンコク
10	ジュターカーン・コンスワンナラット Jutakarn Khongsuwanarat	女性	ウドムスッサー学校 Udomsuka School	教員	英語	バンコク
11	ナットシャー・シハター Natsha Shihata	女性	クアンチャオウ Kwongchow	教員	英語、料理、 スカウト	バンコク
12	チャイデット・ナックサアート Chaidej Naksa-ard	男性	ワット プラシーマハタート附属学校 Wat Phrasrimahadhat Secondary Demonstration School	教員	英語	バンコク
13	シリガモン・モッドモンティン Sirikamol Modmoltin	女性	シンラパコーン大学附属学校 The Demonstration School of Silpakorn University	教員	算数	ナコンパトム
14	エッガラート・モップクントッド Akekalad Mobkhuntod	男性	カセートサート大学附属学校 Kasetsart U. Laboratory School	教員		バンコク
15	グンティガー・パッチャラチャノン Kuntigar Patcharachanon	女性	教育省 MINISTER OF EDUCATION	国際関係 事務官		バンコク

◆付録 4. 関係機関リスト

United Nations University (UNU) ／国際連合大学

5-53-70 Jingumae Shibuya-ku, Tokyo 150-8925

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

Tel:03-5467-1212 Fax:+81-3-3499-2828 URL: <http://unu.edu/>

Ph.D. TAKEMOTO Kazuhiko

Director, UNU-Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

竹本 和彦

サステイナビリティ高等研究所 所長

Ms. FURUTA Tomomi

Administrative Director, UNU-IAS

古田 知美

サステイナビリティ高等研究所 事務局長

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) ／文部科学省

3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8959

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2

TEL: 03-5253-4111 URL: <http://www.mext.go.jp>

Ms. SATOMI Tomoka

Director-General for International Affairs

里美 朋香

大臣官房国際課 課長

Ms. TANAKA Mizuki

**Unit Chief, Office for International
Strategy Planning, International
Affairs Division, Minister's Secretariat**

田中 みずき

大臣官房国際課海外協力政策係長

Lecture : Mr. MATSUBUCHI Shin

Deputy Director,

Elementary and Secondary Education Planning Division,

Elementary and Secondary Education Bureau

International Planning and Coordination Office

松淵 紳

文部科学省初等中等教育局 国際企画調整室長補佐

Royal Thai Embassy ／タイ王国大使館

3-14-6 Kami-Osaki, Shinagawa-ku, Tokyo 141-0021

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-14-6

TEL: 03-5424-0652 Fax: +81-3-5424-0658

URL: <http://www.thaiembassy.jp/rte1/>

Ms. Somjai KLAISUBAN

Minister Counsellor, Royal Thai Embassy

ソムジャイ クライスバーン

公使参事官

School Visit Hosts

学校訪問でご協力いただいた方々

YAMATO Elementary School / 吉備中央町立大和小学校

205 Nishi Kibichuocho Kagagun, Okayama

〒716-1554 岡山県加賀郡吉備中央町西 205

TEL: 0866-55-5003 www.edu.town.kibichuo.okayama.jp/yamato-s1

Ms. TATSUKAWA Kazume

Principal

立川 一女

校長

Mr. HARA Naohide

Vice Principal

原 直秀

教頭

Kibichuo-town Board of Education / 吉備中央町教育委員会

4860-6 Yoshikawa Kibichuocho Kagagun, Okayama

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4860-6

TEL: 0866-56-9191

Mr. TSUSHIMA Masaki

Superintendent

津島 雅章

教育長

Mr. OKAZAKI Naoki

Coordinator

岡崎 直樹

主幹

Kaga Junior High School / 吉備中央町立加賀中学校

1028 Yuyama Kibichuocho Kagagun, Okayama

〒716-1112 岡山県加賀郡吉備中央町湯山 1028

TEL: 0866-54-1007

Mr. NOBUSADA Naoki

Principle

信定 直木

校長

Mr. TAKEDA Hiromochi

Vice Principle

武田 博光

教頭

Kii+ / 公営塾 (きいと)

1002 Yuyama Kibichuocho Kagagun, Okayama

〒716-1112 岡山県加賀郡吉備中央町湯山 1002

TEL: 090-7998-4426

Mr. SHINMEN Takuya

Principal

新免 琢弥

塾長

KIBIKOUGEN Elementary School／吉備中央町立吉備高原小学校

7520-19 Takebe Kibichuocho Kagagun, Okayama

〒709-2343 岡山県加賀郡吉備中央町竹部 7520-19

TEL: 0866-56-9050 <http://www.edu.town.kibichuo.okayama.jp/kibi-s>

Mr. MORIDERA Katsuyuki
Principal
森寺 勝之
校長

Mr. MORIYAMA Ikuji
Vice Principal
森山 育治
教頭

Okayama Prefectural General Education Center／岡山県総合教育センター

7545-11 Yoshikawa Kibichuocho Kagagun, Okayama

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7545-11

TEL: 0866-56-9101 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

Mr. OKIZUKA Ikuo
Center President
起塚 郁夫
所長

Mr. TAKEUCHI Shigenobu
Counsellor
竹内 成長
企画調整監

Minami Ikebukuro Elementary School／豊島区立南池袋小学校

Minamiikebukuro Toyoshima-ku Tokyo 171-0022

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 3-18-12

TEL: 03-3987-6278 http://toshima.schoolweb.ne.jp/minamiikebukuro_e/

Ms. NAKAMURA Masako
Principal
中村 雅子
校長

Mr. NISHIDA Takashi
Vise Principal
西田 隆
副校長
Mr. KOBAYASHI Naoki
Vice Principal
小林 直樹
副校長

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU) / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

Japan Publishers Building, 6 Fukuromachi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8484

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館

TEL: 03-3269-4498

Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

Mr. TAMURA Tetsuo

Director-General

田村 哲夫

理事長

Mr. NINOMIYA Masakazu

Director, General Affairs Department

二ノ宮 正和

総務部長

Ms. SHINDO Yumi

Director, International Exchange Department

進藤 由美

人物交流部長

Ms. KAWAGUCHI Eriko

Programme Officer (the main person in charge),

International Exchange Department

河口 枝里子

人物交流部 事務専門員 (本プログラム主担当)

Mr. SAITO Seigo

Programme Officer (the person in charge),

International Exchange Department

齋藤 盛午

人物交流部 事務専門員 (本プログラム担当)

Ms. TAKAMATSU Ayano

Programme Officer,

International Exchange Department

高松 彩乃

人物交流部 事務専門員

Ms. ITO Tae

Programme Officer, International Exchange Department

伊藤 妙恵

人物交流部 事務専門員

Interpreters / 通訳

Ms. NODA Yuwaree

野田 ユワリー

Ms. YOSHIKAWA Yuka

吉川 由佳

Ms. HARADA Monruethai

原田 モンルタイ

Project Stuff / プロジェクトスタッフ

Ms. KUBOTA Rugirait

久保田 ルジレート

Ms. FUJISAWA Yayoi

藤澤 弥生

Ms. Arbkoksoong Pariyada

アーコスクーン パリヤダー

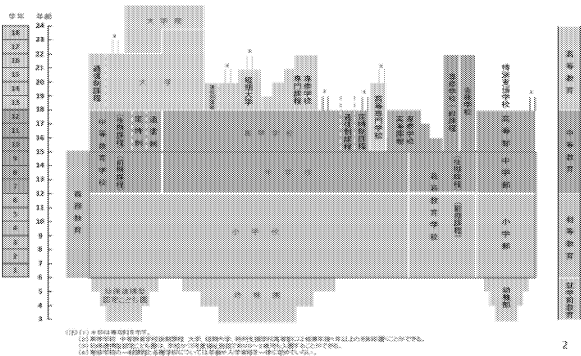
◆付録 5. 文部科学省講義資料

日本の初等中等教育の概要

文部科学省 初等中等教育局
国際企画調整室長補佐 松淵 紳
平成29年10月19日



学校体系



学校数、生徒、教員数

学校種別	設置 種別	設置 数(校)	通常の学 年数(年)	定数 (人)	児童・生徒、 学生数(人)	専任教員 (人)
幼稚園	国・ 私	-	3~5	4,925 8,142	27,012 1,287.3	23,754 87,356
小学校	国・ 私	6	6~11	20,810 222	6,522.6 77.8	411,880 6,880
中学校	国・ 私	2	12~14	9,785 277	5,265.8 242.6	238,710 15,162
高等学校	国・ 私	2~4	19~17	3,943 1,329	2,592.0 1,918.0	574,938 61,968
中等教育学校	国・ 私	6	13~17	38 17	23.6 7.9	1,758 980
特別支援学校	国・ 私	1	3~17	1,983 14	134.8 0.8	76,864 207

出典:平成26年度 学校基本調査 3

義務教育制度の概要

- 憲 法**
- 第26条** すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。
- すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。
- 教育基本法**
- 第5条** 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。
- 2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。
- 3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。
- 4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

義務教育費国庫負担制度の概要

- 憲法の要請に基づき、義務教育の根幹(機会均等、水準確保、無償制)を国が責任をもって支える制度。
- 市町村が小・中学校を設置・運営。
- 都道府県が市(指定都市を除く)町村立学校の教職員を任命し、給与を負担。
- 指定都市は設置する学校の教職員の任命、給与負担を一元的に行う。
- 国は教職員給与費の1/3を負担。



- 【教員の給与】**
- 人材確保法は、教員に優れた人材を確保し、もって義務教育水準の維持向上を図ることを目的として、教員の給与を一般の公務員より優遇することを定めている。

○ 教科書制度

- 【教科書とは】**
- 全ての児童生徒の学校における授業や家庭における学習活動において、重要な役割を担っている主たる教材
- <教科書の法的位置付け>**
- ①各学校において使用しなければならない
 - ②文部科学大臣による検定を経る必要がある
 - ③国から発行者に対する発行指示、定価の認可等
- 【教科書が使用されるまで】**
- 教科書発行者 (教科書編集者) → 検定 (文部科学省) → 採択 (都道府県教育委員会) → 印刷・供給 (教科書印刷会社) → 児童による使用

- 【教科書無償給与制度】**
- ・我が国においては、教科書の役割の重要性から、その使用義務が法律で定められている。
 - ・憲法第26条の義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、授業料の不徴収に準じ、教科書が無償給与される。
 - ・無償給与の対象は国・公・私立の義務教育諸学校の全児童生徒、その使用する全教科の教科書。
 - ・平成29年度予算には、義務教育教科書購入費として、約416億円を計上。

◆付録 5. 報告会（タイ教職員による発表資料）

 2017-2018 International Educational Exchange Programme Invitation Programme for Teachers from Thailand (Kibichuo townon, Tokyo, 15-22 October 2017) 1	The results of the field trips in Japan.  2
The results of the field trips in Japan.  2	Education in Tokyo 1. ACCU 2. Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology 3. Minami Ikebukuro Elementary School    4
The Advantages of Education in Japan 1. The Policy of Educational Development in Japan 2. The teacher is the keyman of Education 3. Visions of Executive Education Board 4. Instructional Activity 5. Educational Research 6. The Participation of Community 7. Accommodation and Environment 8. Teaching Materials 5	Impression    6

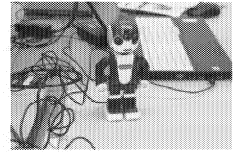
The Application and Utilization in Thailand

1. Educational Policy
2. Instructional Education



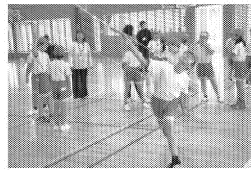
7

Educational Policy

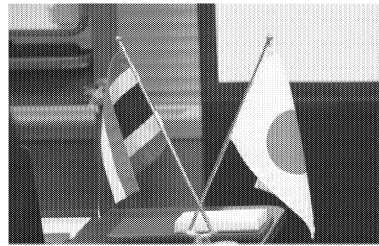


8

Instructional Education



9



Thank you

10

◆付録 6. 写真（プログラムの様子）



岡山県総合教育センターで記念撮影（岡山県）



事前オリエンテーションの様子（岡山県）



歓迎会で「富士山」を歌う吉備中央町教職員
（岡山県吉備中央町）



タイの民族舞踊と一緒に踊る両国の教職員
（岡山県吉備中央町）



岡崎嘉平太記念館訪問（岡山県吉備中央町）



授業見学の様子（吉備中央町立大和小学校）



パソコンの授業の見学（吉備中央町立加賀中学校）



生徒と交流している様子（吉備中央町立吉備高原小学校）



体育の授業の見学するタイ教職員
（吉備中央町立吉備高原小学校）



タイについての事前学習が掲示してある前で記念撮影
（吉備中央町立吉備高原小学校）



概要説明の様子（公営塾 Kii+）



岡山県総合教育センターでの概要説明の様子（岡山県）



吉川八幡宮前で記念撮影（岡山県）



文部科学省表敬訪問（東京都）



昼食で和食を味わうタイ教職員（東京都）



児童らによる元気のよい歓迎（豊島区立南池袋小学校）



文化授業を行ったタイ教職員（豊島区立南池袋小学校）



ムエタイを教えている様子（豊島区立南池袋小学校）



日本児童による伝統文化紹介の様子（豊島区立南池袋小学校）



報告会の様子（東京都）



報告会での記念撮影（東京都）

●国際連合大学 2017-2018 年国際教育交流事業●

タイ教職員招へいプログラム

実施報告書

2018 年 2 月

編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒162-8484

東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館

電話 (03) 3269-4498

Email accu-exchange_ml@accu.or.jp

URL <http://www.accu.or.jp>

Printed in Japan by WACO Inc. [100]

©2018 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)